

職員がゆとりをもって授業に向かうための、時間の生み出しとメンタルヘルス

高山市立花里小学校

1 取組の内容

「仲間とともに乗り越える、常に学び続ける花里の教職員」が職員の合言葉

(1) 教材研究等、職員が学び続けるための時間の確保

①日課の見直し

朝の活動時間を短縮、業間休みの取り方を工夫など、下校時刻を25分早くした。週に2時間5分の時間を生み出した。また、月曜日を会議日として5時間授業の日課とした。放課後の時間はほぼ2倍となった。教材研究の時間の確保が目的。

②諸会議の見直し

職員会議を年4回開催。学習・生活指導部会は月に1回とし、2カ月に1回の企画委員会で検討する。決定は運営会議(校長・教頭・教務・生指・事務職員)。大幅な会議の削減を行い、放課後の時間を確保した。毎週の終礼で職員会議の役割を補完する。

③諸会議の提案資料の工夫

「花里小の教育」ファイル(右)を4月、全職員に配付する。1年間の提案資料を提案。現担当者が実施後すぐに反省を生かした改善案を反映し、次年度資料とする。即改善。資料作成時間を縮減した。



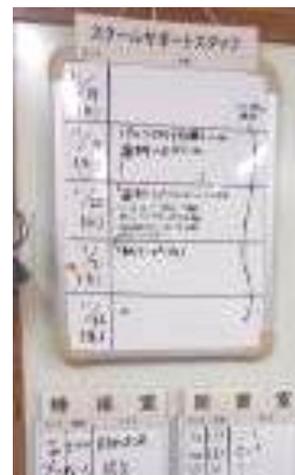
(2) ゆとりある業務をめざして

①職員が働きやすい環境整備

職員図書の整理、事務用品棚の整理、教具倉庫の整理など、スクール・サポート・スタッフの力を借りながら使いやすい環境づくりを進めた。動きが分かるよう、職員室内に行動表を作成した。(右写真)

②ICT活用

毎日、黒板に書いていた日課を職員室内のディスプレイに投影し、作業縮減となった。配信アプリ「すぐる」の活用で、朝の時間の電話対応が減った。新規提案の資料は、ペーパーレス会議として



(3) 職員のメンタルヘルス

①はやくカエル日(水曜日)、8のつく日の励行

終礼を水曜日に設定したり、表示(右)をしたりして意識化を図る。

②時間外勤務時間が45時間を超えた職員と管理職の個別面談

自身のメンタルを振り返るようチェックシートを使って、管理職とともに個人の業務の進め方や悩みなどを確認し、適度抵抗を意識した目標時間の設定を一緒に考える。本年度6月以降0人

2 取組の結果

時間外勤務の平均値は少しずつ減少している。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
令和6年度	39:31	35:45	35:44	24:48	8:33	34:06	32:56
令和5年度	44:09	40:31	39:55	25:30	11:13	38:22	33:07

3 成果

本年度のメンタルヘルス研修での職員の言葉に「花里小の教育が一つのファイルにまとまってすぐに確認ができる。」「退校時間が早い。会議が少なめ。」「職員会の数が少ないこと。負担を少なくしてくださいるので、ストレスが減っている。」「何事も気さくに話せる環境がある。」「学年団だけでなく、校務分掌のチームや関わりを超えて声を掛け合える。」「風通しのよい職場」など、ゆとりが生まれると、職員の対話も増え、職場の雰囲気よくなり、働きやすい職場づくりにつながっていった。